

特集:ミュンヘン・ハイエンドショー 2016

High End 2016 in Munich を見学して

(株)ディーアンドエムホールディングス デノンサウンドマネージャー
山内 慎一

ミュンヘンで毎年開催される世界最大のオーディオショーを見学してきましたので、その様子や筆者が感じたことをレポートしたいと思います。弊社 D&M も会場にブースを構え出展する立場であるため、自社ブースはもちろん他社のブースをみても全体的なレイアウトやディスプレイをはじめブースの構成、演出といったところについて目がいてしまいます。ショー前日より会場入りが出来たためブースの設営にも多少立ち会うことができましたので、その辺りや舞台裏にも少し触れてみたいと思います。

ショーは、5月5日木曜から日曜まで4日間にわたり開催されましたが、その準備や設営にも十分な時間が必要です。弊社でも月曜から水曜まで3日間にわたりブースの設営を行ったとのこと、かなりこのショーのために力を注いでいるのがわかります。また日本のケースと比較してもいかに規模が大きいかわかります。それは他社も同様で、自社製品のプロモートはもちろんですが、いかにお客様にこのイベント（お祭りといってよいかもしれません）を楽しんでもらうか最大限工夫しているということを感じました。

私は水曜日に会場入りしましたが、製品や什器などがまだ会場のいたる所に積み残されている状況で、出展社によっては仕上がるまで結構かかりそうだなと思うところも少なくなかったのですが、活気にあふれ、ある意味舞台作りの楽しさというものが共感できました。

さてショー本番ですが、全体的にはアナログプレーヤーを始めとし、アームやカートリッジからディスククリーニングマシンなど関連商品も含めアナログの大人気というのが実感です。

プレーヤーひとつをとっても超ハイエンドの製品から、2~3万円程度で買えるものまで実に多様なのが面白いところで、歴史の古いメディアだけにユーザによる多種多様な楽しみ方が定着していることが強みであるように

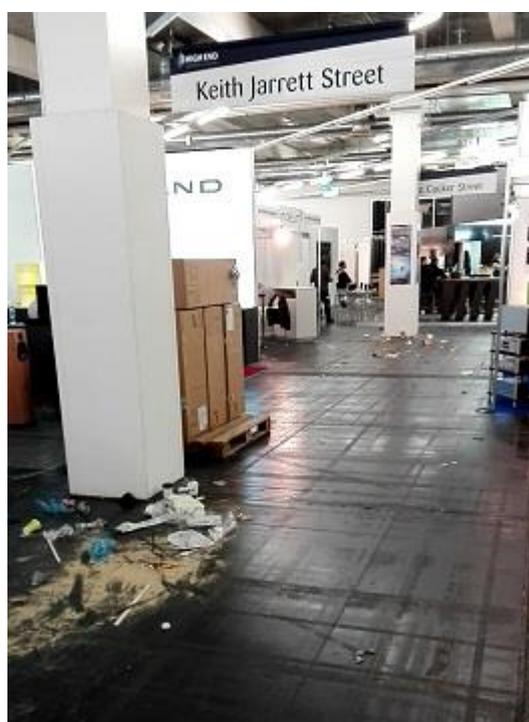


写真 1. 設営段階の様子

写真 2. 植物がテーマのブースデザイン
(audio technica)

も思えます。

日本でもアナログは大変注目されていますが、音質的な魅力はもちろん、そのメカニカルな造形や精巧なディテールが人を引き付けずにはいられないものを持っているからではないかと感じます。一方、精密なたたずまいからポップアートのようなシンプルな造形まで、表現できる幅が広く一つのカルチャーシンボルのようにも思えます。



写真 3 - 4. アナログプレーヤー

弊社 D&M においては会場内にある 4 つの最も大きいブースのひとつを使って DENON、marantz を中心に展示やデモを行いました。

marantz の新シリーズの紹介やデモ、また DENON では最近発売されたばかりの PMA/DCD2500 もデモ致しました。写真にもあるようにブース内に部屋を模したスペースを設け、そこで実際に音出しもするという趣向です。こういったオープンなスペースで実際に音出しをしてみると、お客さんに音質がよく分かるぐらいまで調整するのは結構大変ですが、音響パネルの配置ひとつで随分音質が変わります。写真のようにいくつかの音響パネルや、スピーカーのアレンジ、植物を使って等私自身調整に当たりました。また、ディスプレイに使うフラッグが側にあると音響的に閉塞感が生じますので移動したり、とカットアンドトライです。



写真 5. DENON PMA/DCD2500 デモスペース



写真 6. ワイヤレスシステム HEOS のデモスペース

また、マルチルーム対応のワイヤレスシステムとして既に欧州等で展開している HEOS も日常の様々なシチュエーションでの使われかたを想定し、デモを行っていました。

急ごしらえのショーでは先に述べた様な音響パネル関連は大活躍しているようです。他社のブースを回ってみても、実に様々なデザインのルームトリートメントが施され、パネル類を部屋に調和させたり、あるいは視覚的なひとつのアクセントになるようにデザインされ、見ていて楽しいものです。

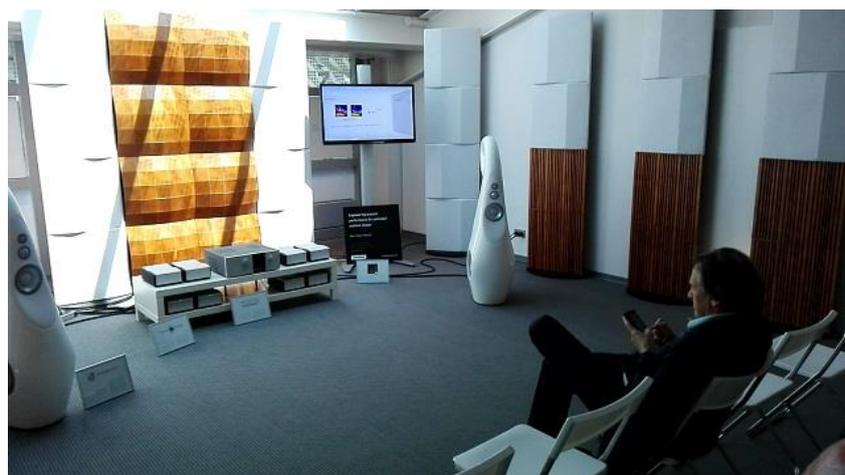


写真 7. ルームトリートメント例 1

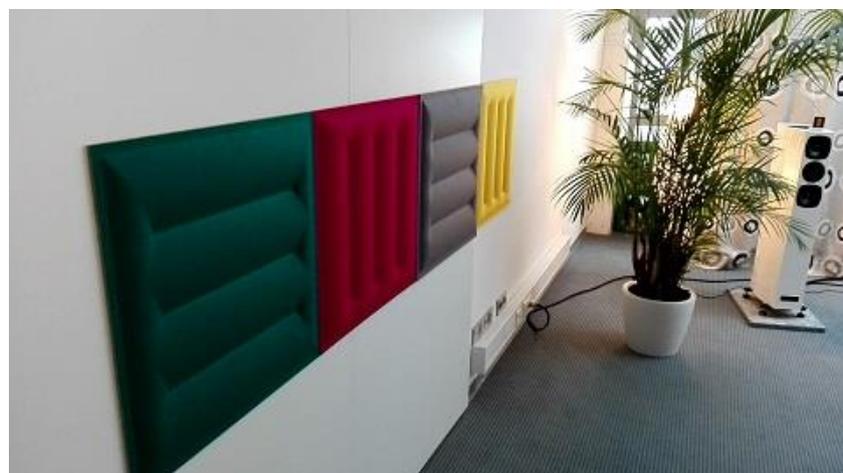


写真 8. ルームトリートメント例 2

こういった数々の試聴ルームでは、アナログと並んで、ネットワークプレーヤーを使ったファイルミュージック再生も非常に多く行われていました。日本での USB-DAC と少し異なり、欧州ではタブレット等で簡単に操作できるネットワーク再生も盛んなようです。

ショーではオーディオ機器や部品といった展示がもちろんメインですが、個人的にはアナログレコードのジャケットデザインを展示してあるスペースも興味深いものでした。ART VINYL という 12 インチのレコードを収め壁にかけられる装飾品を扱っているメーカーが、2015 年の Best Art Vinyl として選定された作品を中心にディスプレイしていたもので、これもまたアナログならではの楽しみのひとつです。思わず気に入ったカバーはつい中身も聴いてたくなるもので、後でいくつか気に入った作品も見つけることができました。



写真 8 - 9. ジャケットアート (Art Vinyl)

ここに書いたことはあくまでショーのほんの一部です。実際には、Car Audio もあれば、近年人気のヘッドフォン関連などありとあらゆるオーディオ製品を見聞きすることができます。人によっても色々なショーの印象や感想があると思いますが、このようなオープンな場があることでオーディオの楽しさをファンやメーカー問わず交流を満喫できるのは素晴らしいと思いました。

筆者プロフィール

山内 慎一 (やまうち しんいち)

1987 年入社、光ディスク関連の電気回路設計を経て、2015 年 1 月よりデノンサウンドマネージャーを務める。